

## 仙台・蒲町小 井上さん姉妹

# 全国防災作文で同時表彰



表彰状を手にする出絃さん（左）と依吹さん

4年・依吹さん

## 津波の威力神社に学ぶ

6年・出絃さん

## 避難方法災害で変わる

自然災害への備えを考え、姉の6年出絃さん(11)が毎日新聞社賞にそれぞれ「全国子ども防災作文コンクール」(実行委員会主催)で、仙台市若林区の蒲町小(児童932人)4年井上依吹さん(9)が最優秀賞

に、姉の6年出絃さん(11)が毎日新聞社賞にそれぞれ選ばれた。7回目の同コンクールで、姉妹または兄弟で同時に表彰されたのは初め。2人は「自分たちが

選はれて驚いた」と笑顔で話した。

依吹さんの作文は「津波からみんなを守った神様。蒲町小の近くにある「浪分神社」を取り上げた。かつて地域に押し寄せた津波から住民を救ったという白馬に乗った神を祭る。

依吹さんは「津波の威力を伝えるために造られたと思った」と主張、住んでいる地域に伝わる災害のリスクを知ることが大事だと気付いた。昨年9月には地域の防災訓練にも参加し、会場設営の体験をしたことも盛り込んだ。

出絃さんは「津波警報で考えたこと」と題し、昨年7月のロシア・カムチャツカ半島付近の巨大地震で発

振り返った。

当時、一人で自宅にいた出絃さんは、両親と連絡を取った上で指定避難所の近隣の中学校に向かったが、夏休みで校舎に明かりがなく、人がいる様子もなかったため帰宅したという。

避難の仕方に戸惑った出絃さんは、その日のうちにハザードマップを確認し、地震や津波以外の災害を含めた避難方法を確認した。「災害によって避難方法が変わることが知れた」と強調した。

作文を通じて防災への理解を深めた依吹さんは「もし本当に災害が起きたときには、避難所を手伝いたい」と話した。出絃さんは「避難行動を確認できたので、命を守る行動をしたい」と誓った。

コンクールには全国の小中学生から数千点の応募があった。最優秀賞は各学年1人ずつ、毎日新聞社賞は全体から4人選ばれた。

(高松直)